

2017年7月1日

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営」コラム第63回

＜経営の道＞

「企業は人なり」を前面に掲げて経営を進めておられる経営者の方々によくお目にかかりますが、コンサルティング業界ではつくづくその思いを強くしています。当然と言えば当然ですが、経営トップを始め、ミドルの幹部や一般社員も含めて全員がお互いの存在価値を認め合い、自らの役割を真摯に発揮している企業の姿は芸術の世界を垣間見るような気持ちにさせてくれます。

赤字経営と黒字経営の差は非常に大きいのですが、どのような時でも基本をしっかりと押さえているか否かの差で、当たり前前を当たり前前に実行し続けていく継続力の差でもあるようです。特に人の持つビジネスに対する意識の差が最も大きく、情熱をもって仕事をしている人ほど多くの困難に出会いながらも平常心を失わず、前を向いて経営の道を歩んでいます。

＜元日産自動車社長 カルロス・ゴーン氏：情熱なくして変革なし＞

「変革を導くのは情熱のある人材だ。情熱がなければ革新は生まれない。共感力、つまり周囲の人々と心を結び、情熱を分かち合うことも大切だ。人の声に耳を傾け、心をつかまないといけない。変革者には専門知識を熟知し、情熱をもって相手を説得できる能力も求められる。～途中略～ 企業提携で最も重要なのは、組織づくりではなく、マインドセット（心構え）だ。両社がともに利益を享受するには何ができるかを互いに考える。まずビジョンを掲げ、人々のモチベーションを高めて忠誠を促す。組織やプロセスを優先すると残念な結果になる」

— 出典：日経・朝刊 12年11月19日付掲載記事から抜粋 —